

事業評価シート（令和4年度実施事業）

事業名	（県立） 基本研修
-----	------------------

1. 事業の整理（「どのような成果を期待して何をどのように行っているのか」その事業の目的等）

目的・必要性	基本研修計画に基づき、経験年数・職務内容に応じて必要となる知識・技能等を習得し、教職員としての資質・能力の向上を図る。
内容 (誰がどのように何をやるのか)	<p>「令和4年度県立学校等基本研修事業実施計画」に基づき、下記の研修会を実施した。県教育センター県立関係指導主事及び本庁等関係部署と協働しながら、全ての研修を計画的に運営することができた。</p> <p>【令和4年度県立学校等基本研修】</p> <p>① 若年教員研修会1年目（10日間） 《集合9日、オンデマンド1日》</p> <p>② 若年教員研修会2年目（1日間）《集合1日》</p> <p>③ 若年教員研修会3年目（3日間）《集合3日》</p> <p>④ 中堅教諭等資質向上研修会（5日間） 《集合4.5日、オンデマンド0.5日》</p> <p>⑤ エキスパート教員研修会（1日間）《集合1日》</p> <p>⑥ 副校長・教頭研修会（2日間） 《集合1.5日、オンデマンド0.5日》</p> <p>⑦ 校長研修会（1日間）《集合1日》</p> <p>⑧ 新任校長研修会（1日間）《集合1日》</p> <p>⑨ 指導教員・教科指導員研修会（1日間）《集合1日》</p> <p>⑩ 新任研修主任研修会（1日間）《集合1日》</p>

2-1 評価指標（総合的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標）

方針	具体的方策	達成指標	実績値
現 1 事業の 連携・協働の 強化	① オンデマンド視聴研修の実施及び見直し	オンデマンド視聴研修の実施及び見直し	<p>◎達成 実施済 見直し済</p> <p>令和4年度 若年研1年目：6講義 中堅研：2講義 副校長・教頭研：4講義</p> <p>令和5年度 若年研1年目：11講義 中堅研：4講義 副校長・教頭研：7講義 指導教員・教科指導員研：5講義</p>

	② タブレット端末等の活用の方向性の継続検討	タブレット端末等の活用の方向性の決定	◎達成 実施済 方向性の決定 令和4年度 受講者がテキスト・資料・持参物をタブレット端末等で持参も可 令和5年度 受講者全員がタブレット端末等を持参 テキスト・資料・持参物をタブレット端末等で参照
--	------------------------	--------------------	---

2-2 評価指標 (総括的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標)

方針	具体的方策	達成指標	実績値
2 運営システムの構築 事業の継続的な質的向上を実現する	① 育成指標に基づいた研修の企画、実施、評価	法定研修の企画、実施に係る受講者評価の平均値：3.8以上 (4件法：最高値4.0) 評価項目：研修内容が自身のキャリアステージに応じた「育成指標」の資質・能力の向上に役立つ内容だったか。	△一部未達成 ・若年研1年目：3.83 ・若年研2年目：3.87 ・若年研3年目：3.84 ・中堅研：3.79
	② Web会議ツールを用いた研修実施	所内でのサテライト会場及び一部の受講者のオンラインによる研修の実施	◎達成 実施済
	③ 研究成果を活用した研修の継続実施	研究成果を活用した研修の実施	◎達成 実施済

2-3 評価指標 (総括的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標)

方針	具体的方策	達成指標	実績値
3 効果的・効率的な広報活動の充実 事業の成果を周知・普及する	① 教育センター各事業のPRや成果物の情報発信の推進	センター事業紹介又は紹介資料の配布実施	◎達成 実施済 ・全研修会において事業紹介に関する資料を配布
	② 目的に沿った研修の成果還元や内容の事後研修が可能な研修資料の提供	目的に沿った研修資料を提供	◎達成 実施済 ・主に教科別等研修においてセンター等の成果物を活用

3. 総括的評価 (評価指標の実績を基に必要性や有効性を総括的に評価)

方針	方策内容	評価	判断理由
1	・オンデマンド視聴研修の実施及び見直し ・タブレット端末等の活用の方向性の継続検討	4	○ オンデマンド視聴研修については、各業務を分担して計画的に準備を進め、円滑に運営することができた。令和5年度は、さらに拡充していく。 ○ 令和4年度は、受講者自身がそれぞれの実態に応じて紙媒体かタブレット端末等かを判断し、持参した。令和5年度は、受講者全員にタブレット端末等の持参を促し、ICT を効果的に活用した研修を展開していくこととした。
2	・育成指標に基づいた研修の企画、実施、評価 ・Web 会議ツールを用いた研修実施 ・研究成果を活用した研修の継続実施	3	○ 研修後に実施した「基本研修のまとめ」の「育成指標」の資質・能力の向上に役立つ内容だったかという受講者評価の平均は、一部未達成があるものの概ね適切に研修を実施することができたと考える。 ○ 集合研修では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各研修室に受講者を分散し、サテライト配信で実施することができた。 ○ 複数の講義において、研究成果物等を活用した研修を継続実施することができた。
3	・教育センター各事業のPRや成果物の情報発信の推進 ・目的に沿った研修の成果還元や事後研修が可能な研修資料の配布	4	○ 全研修会において、事業説明や紹介資料の配布を行うことで、教育センターの各事業や研究成果物等の積極的な情報発信に努めることができた。 ○ 特に教科別等研修において、講義内容の理解を深めたり事後研修に生かしたりする等の目的から、講義スライドの配布や関係資料等の紹介等を行うことができた。

※ [評価] 4：妥当 3：ほぼ妥当 2：要検討 1：不十分

4. 課題・問題点 (以上の自己点検・評価結果から見えてくる課題・問題点)

方針	方策内容	課題・問題点
1	・研修及び運営のICT化及び効率化	○ 受講者のタブレット端末持参について、本庁と協議の上、受講者全員に持参を促していくこととした。テキスト・資料・持参物をタブレット端末等で参照するのみならず、受講者同士の情報の共有などでタブレット端末等を活用できるように環境を整備していく。 ○ 運営にあたっては、これまで紙媒体であった受付業務や運営資料を電子化していく。効率的な運営の具体的な方法についてさらに検討を進めていく必要がある。
2	・育成指標に基づいた研修の企画及び実施 ・オンデマンド視聴研修における	○ 新しい育成指標に基づいた研修となっているか、実施後に評価し、次年度以降の研修の企画につなげていく。 ○ オンデマンド視聴研修は、繰り返し視聴でき自己のペースで学びを深める良さや、受講者の移動への負担軽減といった効果があると考えられる。その一方、令和4年度は、集合研修に比

	内容の充実	べて受講者の育成指標に対応する評価がやや低い傾向にあったことから、オンデマンドの特性を生かした研修内容の充実を図っていく必要がある。
3	・目的に沿った研修の成果還元や事後研修が可能な研修資料の配布	○ 年度初めの県立基本研修部会及び県立基本研修説明会において、研修資料提供の目的を共通確認する必要がある。 ○ 教科別等研修前に実施する資料検討会において、どんな資料が受講者に還元できるかを指導主事間で協議していく必要がある。

5. 令和5年度の改善及び進捗状況

(課題・問題点に対し、令和5年度の事業に反映させた改善点及びその進捗状況)

方針	方策内容	改善状況
1	・研修及び運営のICT化及び効率化	○ 受講者のタブレット端末等持参について、本庁と協議の上、受講者全員に持参を促す準備ができています。テキスト・資料・持参物をタブレット端末等で参照するのみならず、受講者同士の情報の共有などタブレット端末等を活用できるように環境を整備していく。 ○ 運営について(受付業務や運営資料の電子化など)は、3月の県立基本研修部会で周知し、理解を得られた。効率的な運営の具体的な方法については「令和5年度県立学校等基本研修事業実施計画」に記載した。今後は実施をしながら改善を図っていく。
2	・育成指標に基づいた研修の企画及び実施 ・オンデマンド視聴研修における内容の充実	○ 新しい育成指標を「令和5年度県立学校等基本研修事業実施計画」へ反映した。実施後に評価し、次年度以降の研修企画につなげていく。 ○ オンデマンド研修の成果と課題について、令和5年度の県立基本研修部会で事業評価シートを共有することで周知を図り、オンデマンド研修の改善につなげていく。
3	・目的に沿った研修の成果還元や事後研修が可能な研修資料の配布	○ 年度初めの県立基本研修部会及び県立基本研修説明会を企画中である。内容について今後検討していく。 ○ 教科別等研修前の資料検討会を県立基本研修の年間計画の中に記載済みである。内容については、今後検討していく。

令和6年度以降に向けた事業改善一覧表【基本研修(県立)部会】

事業評価委員会委員の意見(課題・問題点等) 要旨	左の意見に対する対応方針 (該当項目に■印) (□R6年度に改善する □中期的(2~5年)に改善する □(5年以内の)対応は困難)
受講者が持参したタブレット端末の活用方法については、講義の資料共有にとどまらず、受講者同士の情報共有に繋がるような工夫が必要。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 R5年度の「研修のまとめ(受講者アンケート)」を基に、タブレットの活用方法を含めた研修内容の改善に取り組むこととしている。
集合研修・オンデマンド研修それぞれの特性をうまく取り入れた研修内容となるよう工夫が必要である。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 県立基本研修においては、既に集合研修とオンデマンド研修を組み合わせで行っているところであるが、R5年度の成果と課題を踏まえ、更なる改善を図っていくこととしている。
県立基本研修については、働き方改革や新たな研修体系を考慮し、より多くの教員が受講できるよう、受講者が、集合研修、オンデマンド研修、オンライン研修の、どの研修形態で受講するかを選択できるような仕組みを考える必要がある。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 県立基本研修では、「校長がリーダーシップを発揮できる環境づくり」や「選ばれる県立高校づくり」など、所属校の課題となっていることについて、受講生に当事者意識をもたせるような内容の研修をさらに盛り込む必要がある。
県立基本研修については、オンラインでの研修が増えるよう工夫してほしい。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 R5年度の「研修のまとめ(受講者アンケート)」を基に、オンライン等の研修形態を含めた研修内容の改善に取り組むこととしている。
県立基本研修については、学校における指導技術の維持・向上に向け、特に授業研修や教科別研修等における具体的な指導技術に関する研修や授業改善への「気付き」を促す研修のさらなる推進をお願いしたい。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 基本的な授業づくりに関する研修や各教科等の特性に応じた研修は今後も基本研修として継続して実施していく必要があると考えており、R5年度の成果と課題を踏まえ、次年度の内容がより充実するよう、内容の検討を行うこととしている。
県立基本研修については、福岡県教員育成指標に照らした各研修の位置付けの明確化や対面研修とオンライン活用とのベストミックスが求められている。	■R6年度改善 □中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 県立基本研修では、全ての研修において、福岡県教員育成指標を踏まえた研修の目的を周知することとしている。また、オンライン研修の活用については、既に集合研修とオンデマンド研修を組み合わせた研修を行っているところであるが、R5年度の成果と課題を踏まえ、更なる改善を図っていくこととしている。